



教育活動の重点キーワード

「縄南道」の形成、「心・技・体」の研鑽

「縄南道」アンケート、学校教育自己診断等の結果より

先日は、学校教育自己診断ならびに学びのトライアル事業（市事業）に係るアンケートにご協力いただきありがとうございました。学校教育自己診断は、それまで文部科学省から平成18年度に学校評価についての目安が示されていたところに平成19年6月の学校教育法改正により学校評価の根拠規定が新設され、それを受け平成20年1月31日に「学校評価ガイドライン」が改定され実施しているものです。さらに平成22年には、平成20年の基本構成は変更せずに少し内容が改定されています。東大阪市ではこの学校教育自己診断だけでなく、学力向上対策学校支援事業の取り組みの一貫として学びのトライアル事業における生徒・保護者に対するアンケートを実施しています。また、縄手南中学校では本校独自で12項目からなる「縄南道」アンケートを生徒に対して実施し、簡単な多変量解析を用いて「意識」のあり方に重きを置いて検証しています。「縄南道」アンケート結果は、すべての生徒が「できている」と言い切れたとき結果は100となり、すべての生徒が「できている」と言い切れなかったときは結果が-100となります。一般的なアンケートでは肯定的な結果が80%に達したとき、その目的を達成できたと評価されることがありますが、本校の「縄南道」アンケートをそれに照らし合わせると概ね60という数値結果となります。

「縄南道」アンケートには表の項目があります。これらは「縄南道」の柱とする「人格形成」に

- ①チャイム着席はしっかりできた
- ②授業に必要な物は忘れずに用意できた
- ③宿題・提出物はきちんと提出できた
- ④授業中、私語などせず集中できた
- ⑤遅刻はしなかった
- ⑥清掃はまじめに取り組んだ
- ⑦頭髪、服装の決まりは守れた
- ⑧あいさつはきちんとできた
- ⑨先生への言葉使いはいいねいにできた
- ⑩予習、復習に取り組む学習習慣がある
- ⑪プリント類はその日のうちに親にみせた
- ⑫自分がんばった

必要な「意識」の項目です。「意識」が変われば「行動」が変わり、「行動」が変われば「習慣」が変わり、「習慣」が変われば「結果」が変わるという考えのもと、「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」とともに「意識」の在り方を数値化しているものです。3年前よりこのアンケートを年2回実施していますが、生徒達の意識は確実に向上しています。結果から最も意識が高かった項目は⑦で91.7(100%換算すると概ね95%以上)、次が①で85.1(概ね93%)で、60を上回った項目は8項目あり、60に達していない項目は⑫57.9(概ね79%)、④54.3(概ね77%)、⑩16.0(概ね58%)、⑪10.7(概ね56%)となっています。この結果から、家庭での学習習慣や学校からの配布物を保護者にきちんと渡す等のことがまだ

まだ課題ではありますが、これらの項目結果も以前よりはかなり上昇した数値結果となっています。⑫の「自分がんばった」という項目で、まだがんばれていないと答えている生徒もいますが、縄手南中学校の生徒はみんないろいろがんばっていることもたくさんあります。「まだまだやれる」という意識を持って高いレベルを目標としてくれていることは本当にうれしいことです

ので、日頃からさらに高い目標を目ざして前進して行くことを常に意識しています。

また学校教育自己診断結果における生徒質問結果では、22項目のうち10項目が肯定的な意見が80%を上まわっています。最も高かった項目は、「学校では命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」が91%、最も低かった項目は、「地域行事への参加、学校・地域のボランティア活動に参加した」が55%という結果でした。また、「学級で自分の意見を発表したり、他人の意見や考えを聞く機会がある」では84%で以前と比較し16P上昇し、「学校では人権の大切さを学ぶ機会がある」では81%で以前より13P上昇しています。保護者質問結果では28項目のうち22項目が肯定的な意見が80%を上回り、最も高かった項目は、「学校は朝の読書活動、読書指導に取り組んでいる」「学校は授業や行事の参観等、保護者が学校に来る機会を積極的に設け、開かれた学校づくりに努めている」が91%、最も低かった項目は「学校は、生徒や保護者に対して進路に関する適切な情報提供を行っている」が71%でした。この進路に関する事柄については、大阪府は来年度より劇的に大きく変化します。多くの情報やうわさが錯綜することも考えられますので、本校では通常、3年生保護者対象に実施する進路説明会とは別に、今年度2月末に1、2年生の保護者対象に情報を整理するための進路説明会を実施の予定です。詳細につきましては後日連絡致しますのでよろしくお願いいたします。また先日、本市においても学力向上に関する教育フォーラムが市民会館で開催されました。この時期は他の自治体でも同様の事柄が多く開催されます。本校の職員も秋田県を始め、いくつかの他市他府県の取り組みを視察しています。その中で文部科学省から示される報告もあわせ、共通して報告されていることは、「子どもたちが自分の夢を実現することができる目標や過程を設定できる力をつけること」「これからのグローバル社会に通用する人になれること」など、そしてこれらを実現するために、学校、家庭、地域は何をすべきか、何に取り組まなければならないかということが報告されています。学習規律、生活規律を大切にすることや、「人格形成」を教育活動の柱とすることなど、縄手南中学校における「縄南道」の確立への取り組みはまちがっていません。さらに学校教育活動の中では、「人格形成」を柱とした幼稚園、小学校、中学校が連携した具体的な取り組みを進めて行くことの重要さも感じています。1月に入って3年生に対し、高校入試のための面接練習を行いました。全員に対して共通な質問項目として「あなたの過ごされた中学校はどんな学校でしたか？」という質問をしたところ、「日本一を目ざし、みんなが協力できる学校でした。」「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！をモットーとする学校でした。」とほとんどの生徒が答えてくれました。その他「みんな仲の良い学校でした。」「ラジオ体操日本一を目ざしていました。」等の答えもありました。3年生の表情が緊張の中にも柔らかく、自分の学校に愛着を持っていることを感じて微笑ましい印象を受けました。これからもぜひ、縄手南校区一体となって日本一を目ざして行きたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

決めたら迷わず前進すること！迷うことが最大の後退である！

3年生は12月の進路懇談を終え、先日は私立高校の出願も終わりました。これから私立高校、公立高校前期・後期と本番が近づくと、いろいろと迷いも出てくることもあります。しかし、一度自ら決めたことにはあれこれと迷うのではなく、大事なことは限られた時間をどう効果的に使うかということです。一度決めたことにもかかわらず迷って何もせず、自信を失くすことが最大の後退ですから、迷わず、できることを着実に実行することが大切です。3年生は迷わず、ていねいな時間の使い方を心がけて進んでください。

クラブ等の主な記録

女子バスケット 第49回東大阪市民大会少年女子之部 優勝

陸上 第34回中河内地区中学校駅伝競走大会男子1区 2位 北西海人(2年)15'04"

第48回東大阪市学校園保健研究大会 保健委員会の研究発表における学校表彰